



.....
 監督・脚本＝アンソニー・ミン
 ゲラ／出演＝ニコール・キッド
 マン／ジュード・ロウ／レニ
 ー・ゼルウィガー（東宝東和配
 給／2003年イギリス・イタリ
 ア・ルーマニア合作映画／155
 分）

時代は南北戦争末期の1864年。この激動の時代に翻弄されながらも、固く結びあ
 った牧師の令嬢エイダと敗残兵となった南軍の兵士インマンとの壮大な恋愛話
 語。エイダが語る手紙のやりとりを聞いているだけでも感動モノだが、2人の再
 会やその他の感動シーンでは思わず涙が……。『風と共に去りぬ』（39年）のスケ
 ール感で『イングリッシュ・ペイシェント』（96年）が描いた恋愛劇の感動を与
 えてくれる映画。美しく、そしてすばらしいニコール・キッドマンに拍手！

🎬 期待にたがわぬ2時間35分の感動大作

①「南北戦争の激動の時代に生まれた純粹すぎる恋——21世紀の『風と共に去
 りぬ』」、②「『イングリッシュ・ペイシェント』の超一流スタッフが再結集」と
 いうのがこの作品のうたい文句。そして、③何と上映時間2時間35分という大
 作。そのうえ、④ジュード・ロウ（インマン）、ニコール・キッドマン（エイダ）、
 レニー・ゼルウィガー（ルビー）という3人の大スターの登場、⑤敗残兵となっ
 て南部ヴァージニアの病院から脱走し、コールドマウンテンまでの480kmをた
 だひたすら歩き続けたインマンと、その彼を待ち続け、手紙を書き続けたエイダ
 との恋という大まかなストーリーを知るだけで、観る前から胸ワクワクの作品。

鑑賞中は、予想どおり、いや予想を上回る感動の連続。2時間35分の間さまざ
 まな表情を見せるニコール・キッドマンの美しさを堪能しながら、ラストの感動
 シーンでは思わず涙が……。

映画終了後、「今日の映画は良かったね！」と試写室のスタッフに感想を告げると、「先生、目がウルウルしてますよ！」と指摘される始末。ちょっとカッコ悪かったが、とにかく感動でいっぱい。こんな作品にめぐりあえると、心が豊かになるうえ、充実した時間を過ごしたという満足感でいっぱいだ。

時代と舞台は？

時代は1861年に始まった南北戦争の前後。舞台はアメリカの南部。コールドマウンテンとはノースカロライナ州のブルーリッジ山脈にある険しい山。この険しくも美しい山間の開拓地に移住してきたのが、モンロー牧師（ドナルド・サザーランド）とその美しい娘のエイダ・モンロー（ニコール・キッドマン）。村の若者たちはここに教会を建てて、牧師一家を迎え入れた。この中で、無口な村の若者インマン（ジュード・ロウ）とエイダとの恋（らしきもの）がスタートするが、愛の言葉が交わされるわけでもなく、その関係は中途半端なもの。

そんな中、遂に1861年南北戦争が始まった。先行してアメリカ合衆国から脱退していたサウスカロライナ州、フロリダ州、ジョージア州などに続いてノースカロライナ州も脱退を表明し、合計11州が南部連合国を形成して、ジェファーソンを「大統領」に選出。そしてリンカーン大統領率いる北部同盟との戦争が始まることになった。村の男たちはこの戦争に大乗り気。「1カ月で帰ってくるサ」と言いながら、意気揚々。この様子は、あの名作『風と共に去りぬ』（39年）に描かれた南北戦争開始直前の状況と全く同じだ。ちなみに、名画ベストテンを選べば常にトップとなる『風と共に去りぬ』の舞台となり、『タラのテーマ』という美しい曲のタイトルとなった「タラ」とは、ジョージア州の「アトランタ」のこと。このアトランタはブルーリッジ山脈の南東端に位置している。

当然インマンも南軍の軍隊に参加。その出征の日、エイダはインマンの部屋を訪れ、1冊の本と自分の写真をインマンに手渡した。そこではじめて2人は抱き合い、熱いキスを交わすが、できることはそれだけ。2人の気持の確認も不十分。これからの約束もなし。しかし戦争は始まった。そんな不安定なままの2人の関係だったが、インマンは「お帰りを待っているわ」「生きて帰ってきて！」というエイダの声をしっかりと聞いて出征した。

🎬「クレーター」の戦いとは？

それから既に3年。インマンは別れ際に交わしたエイダとのキスとエイダの言葉を頼りに、つらい戦争を戦っていた。インマンの心の支えは今はボロボロになったエイダからもらった本とエイダの写真。そして戦場に3通だけ届いたエイダからの手紙だった。

映画の冒頭は、いきなり1864年7月30日の「クレーター」の戦いと呼ばれる、ヴァージニア州のピーターズバーグでの北軍による攻撃からスタートする。この冒頭の戦いからして、ものすごいもの。

北軍は、南軍のたてこもる陣地の地下にトンネルを掘って爆弾を仕掛け、これを一斉に大爆発させた。これで北軍の勝利はまちがいなしと思ったら、実はそうでもなかった。つまり次々と突進してきた北軍は、大爆発によってできた大きな穴（直径約400mのクレーター）に入り込んで身動きがとれなくなったため、爆発のショックから立ち直った南軍から好き放題に攻撃される事態に。この大きなクレーターが「アリ地獄」となったため、このアリ地獄に入り込み身動きがとれなくなった北軍に対する攻撃やそこで展開される肉弾戦のすさまじさは、あの『プライベート・ライアン』（98年）の冒頭シーンを彷彿させるもので、とにかくすごい一言。しかし結局、南軍は敗退し、この戦いに参加していたインマンも、喉に瀕死の傷を負って病院へ入ることに。

🎬 2人の主役は？

インマンを演じるのは、あの『スターリングラード』（01年）で、狙撃兵を演じて強い印象を残したジュード・ロウ。ハンサムな顔立ちを見せる場面と髭ボウボウでボロボロの服を着て逃げ回る場面をうまく使い分ける好演技。

そしてエイダを演ずるのは、私の大好きなニコール・キッドマン。1967年生まれだからもう既に30代半ばだが、その美しさにはますます磨きがかかっている感じ。『遙かなる大地へ』（92年）、『冷たい月を抱く女』（93年）、『ある貴婦人の肖像』（96年）の頃が一番きれいなものかもしれないが、その魅力は今でも全然衰えていない。『アイズ・ワイド・シャット』（99年）での全裸ヌードシーンはショッ

ク(?)だったが、その後の『ムーラン・ルーージュ』(01年)は、とにかく最高に面白い映画。そして『アザーズ』(01年)は作品としては大したことはないものの、ニコールの美しさだけでオーケー。そして『めぐりあう時間たち』(02年)での「老け役」はちょっと意外だったが、これもいい映画。

このように彼女の出演する映画はどれもすばらしい。もっとも、ニコールがいい役をしたうえで作品が良ければ最高だし、作品は大したことなくてもニコールが美しければそれで満足、という私の基準そのものが甘すぎるのかもしれないが……。この映画では、ニコールの美しさがさまざまな場面で、そしてさまざまな表情で発揮されるので楽しい。そしてまたハイライト場面での2人の再会と2人が結ばれる場面における演技と表情のすばらしさ。思わず「ニコール・キッドマン万歳!」と叫びたくなってしまうほど(何、お前はバカか! だと……?)

以上、ちょっとしつこくなりすぎた坂和流ニコール・キッドマン讃歌でした。

インマンの帰還の苦難といくつかのエピソード

敗残兵となったインマンの想いは、とにかくエイダの待つコールドマウンテンに帰ること。それ以外にはない。しかし敗残兵は見つかり次第殺されるし、これをかくまった民間人たちも同様だから、まともに帰る道があるわけではない。しかも逃げ出したヴァージニア州の病院から、コールドマウンテンまでは480kmもある。したがってこの脱走の旅は、当然苦難の連続となるが、そこにはいくつかのエピソードが散りばめられている。そのエピソードは次の4つで、その1つ1つが独立したストーリーとしての面白さと説得力をもっている。

- ① 奴隷の若い女に手を出し、子供をはらませたため、その奴隷女を殺そうとしていた変な牧師ヴィージー(フィリップ・シーモア・ホフマン)との出会いと、このヴィージーと一緒にしたの逃亡のストーリー。
- ② 一夜の宿を提供して、食事や酒や女を振る舞うように見せかけて、「脱走兵狩り」をするジュニア(ジョヴァンニ・リビシ)の手に、まんまとインマンとヴィージーがはまってしまうストーリー。
- ③ 「脱走兵狩り」で瀕死の重傷を負ったインマンを、山羊飼いの老婆マディ(アイリーン・アトキンス)が助けるストーリー。

- ④ インマンに一夜の宿を提供した未亡人セーラ（ナタリー・ポートマン）とインマンが心を通わせるストーリー。

エイダの苦難といくつかのエピソード

他方、インマンの帰りをじっと待つエイダにも3年以上続いた南北戦争は大きな苦難を与えた。1人待つエイダをめぐる展開されるエピソードは次の5つ。

- ① 愛する父親モンロー牧師の死。その死亡によってエイダは1人ぼっちになってしまった。
- ② いつもエイダを支えてくれたエイダの隣人のサリー・スワンガー（キャシー・ベイカー）一家を見舞う悲劇。
- ③ この映画の3番目の主役ともいえるルビー・シューズ（レニー・ゼルウィガー）との出会いと友情。これは項をあらためて紹介しよう。
- ④ 食料品を盗もうとしてワナにはまったルビーの父親スタブロード（ブレンダン・グリーンソン）の登場と父親の物語。
- ⑤ 父親とコンビを組んでバンド演奏をするパングルやオークリーの登場と楽しい音楽。このストーリー展開の中、パングルは義勇軍によって殺害されるが、父親とオークリーは生き延びてラッキーな運命に……。

このように、エイダをめぐるでも、いくつかのエピソードが展開されるが、これもインマンをめぐるストーリーと同様、1つ1つが面白くかつ説得力がある。

ルビーの登場

この映画の第3の主役ともいべき人物がルビー。食事と寝床だけを保証してもらおうという条件ながら、あくまでメイドではなく対等のパートナーという立場で、1人ぼっちのエイダを助けるという珍しい役割。彼女が女ながらもたくましく生きていく術を知っているのは、小さい時から父親に虐待されたため、何でも1人でやり、生き抜いていく能力と人生観を身につけたから。だから、ルビーは高尚なことはわからないが、生活のために必要なことは何でも知っているし、できるという、当時としては珍しい「自立した女」。このルビーを演ずるのは『シカゴ』（02年）でアカデミー主演女優賞にノミネートされたあの有名なレニー・ゼ

ルウィガー。決して美人ではないが、個性的で忘れられない女優。この映画でもレニー・ゼルウィガーはルビーのキャラをうまく演じている。このルビーのキャラは、お嬢様として育ったエイダとは全く正反対。ピアノが弾け、音楽の知識があり、ラテン語が読め、多くの小説を知っていることは、ある状況では価値があっても、きびしい自然環境の中で1人で生きていくには何の役にも立たない。ルビーの生き方を見て、「私には何もできない！ 生活のために必要なことは何もしないでいいと教えられてきた。そういう育ち方をしたんだ！」と自分の気持ちをぶちまけるエイダの姿は、あの時代の、女の悲しさを物語るものかもしれない。

義勇軍とは？ 少しお勉強

コールドマウンテンの開拓地のまちには、壮年期の男たちは1人もいなくなった。なぜなら彼らはみんな出征してしまったから。だから残っているのは、若すぎるか年をとりすぎているかで軍隊に入れないう男とあとは女、子供ばかり。この中途半端な年齢の男たちが組織するのが義勇軍。これは、一方ではまちや農場をゲリラや盗賊から守ったり、脱走兵を捕まえたりという重要な役割を果たすものの、他方で、女、子供しかいないまちで、権力をカサに着て威張ったり、悪事を働くワルイ義勇軍もいたらしい。

コールドマウンテンの義勇軍は？

コールドマウンテンの義勇軍のボス、ティーグ（レイ・ウィンストン）はそのワルの典型。何でももともとこの一帯の地主だったのに、土地を取りあげられたとひがんでいる年配のオッチャンだが、権力をカサに着たイヤなヤツ。「脱走兵狩り」に生きがいを感じているらしい。そのうえ、父親が死に1人ぼっちになったエイダの美しさに目をつけているようで、何かといやらしい目でエイダを見ている。「何か困ったことはないか……？」と明らかに金と権力でエイダをモノにしたらしい。また、若手のバリバリなのに軍隊に入らないで、義勇軍として地元に残っているのがなぜなのかよくわからないが、このティーグの配下で義勇軍として働いているのがボジー（チャーリー・ハナム）。これもワル。そして最後にインマンと決闘する立場に……。

このティーグ率いる義勇軍が働く悪事は次の2つ。

第1は、サリーが脱走兵をかくまっているとして家に乗り込み、父親と子供たちを虐殺するストーリー。これによってサリーも大きな傷を受けることに。

第2は、ルビーの父親とその相棒パングルがたき火をしながら夜を過ごしていたところを見つけて、これを殺してしまうストーリー。

とにかくやることが無茶苦茶だ。

インマンとエイダとの再会は？

映画は2時間35分もあるから、前述のインマン側とエイダ側それぞれのエピソードを散りばめながら、クライマックスのインマンとエイダとの再会場面に……。そして2人の再会は、エイダとルビーが父親たちを捜すために山の中に入ってきたところで……。その再会の場面は感動的！そして、さらに感動的なのは、山小屋の中で2人がはじめて結ばれるシーン。やはり1つくらいは、ニコル・キッドマンの美しいヌードシーンをサービスしてくれなくちゃ……。3年あまりの想いがやっと実現した2人は、これからやっと幸せに農場で暮らすことができる……。しかし、そうすんなりとハッピーエンドになったのでは、映画としては面白くない。ここで最後の戦いが……。そしてインマンは……？

美しいラストシーン

今はすっかりたくましくなって農場で暮らすエイダ。今そのエイダの隣には可愛い女の子が……。そして食事タイムに集まってきた人物たちは……？

南北戦争が終了して数年後、ここコールドマウンテンにも平和が訪れ、やっと今エイダは、日々の労働と娘との生活の中でインマンのことを忘れられるようになってきた。そのまわりで一緒に生活しているのは、あの戦争の中で生き残った人たち。戦争の虚しさ、そしてその戦争の中で生まれたインマンとエイダとの本当の愛の強さを印象づけてくれる美しいラストシーン。そして最後に、流れてくる字幕を観ながら、また心をうつ静かな音楽を聴きながら、感動作にめぐりあった幸せの余韻に浸ることができた。

2004(平成16)年3月12日記